

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 22 年 6 月
弘前大学

目 次

| | | |
|--------------|-----------------------------------------|----|
| 資料 1-1-1-2.1 | 弘前大学における英語教育に関する基本方針 | 1 |
| 資料 1-1-1-5.1 | 農学生命科学部再編に係る設置計画（抜粋） | 2 |
| 資料 1-1-1-5.2 | 平成 21 年度「教員養成総合実践演習 I」シラバス | 4 |
| 資料 1-1-1-7.1 | インターンシップ参加者進路状況 | 5 |
| 資料 1-1-2-3.1 | 卒業生・企業等へのアンケート結果 | 6 |
| 資料 1-2-1-1.1 | 「外部評価報告書」等を踏まえた 平成 22 年度入試における改善承認事項 | 7 |
| 資料 1-2-5-2.1 | 学部ごとの成績評価基準 | 8 |
| 資料 1-3-1-7.1 | 農学生命科学部学生のアンケート結果 | 9 |
| 資料 1-3-1-9.1 | 文系図書・資料購入について | 10 |
| 資料 1-3-3-2.1 | 弘前大学出版会出版実績（平成 20・21 年度） | 11 |
| 資料 1-3-3-6.1 | 研究インターンシップ派遣実績 （平成 20・21 年度） | 12 |
| 資料 1-4-1-1.1 | 弘前大学学生担任制度に関する要項 | 13 |
| 資料 1-4-3-1.1 | キャリア教育履修学生の進路状況 | 14 |
| 資料 1-4-3-4.1 | 弘前大学特別研究助成制度（博士後期課程） | 15 |
| 資料 2-1-1-2.1 | 弘前大学機関研究の採択状況について | 16 |
| 資料 2-1-1-2.2 | 弘前大学における学内研究助成事業の実施状況 | 17 |
| 資料 2-1-3-1.1 | 第 1 次産業の活性化に関わる研究の実施状況 （平成 20・21 年度） | 18 |
| 資料 2-1-3-3.1 | 弘前大学「医用システム開発マイスター」養成塾 カリキュラム | 19 |

| | | |
|--------------|--------------------------------------------------|----|
| 資料 2-1-3-4.1 | 産業や文化の創造・発展に寄与する産学官連携 による研究の実施状況（平成 20・21 年度） | 20 |
| 資料 2-1-4-1.1 | 先見性のある基礎的研究への支援状況 （平成 20・21 年度） | 21 |
| 資料 2-2-2-1.1 | 共同研究の実施状況 | 22 |
| 資料 2-2-2-2.1 | 教員派遣制度報告書（抜粋） | 23 |
| 資料 3-1-2-1.1 | 弘前大学創立 60 周年記念会館 コラボ弘大施設概要 | 24 |
| 資料 3-1-3-3.1 | 弘前大学特別聴講学生単位修得に関する資料 | 25 |
| 資料 3-1-3-3.2 | 協定校留学で取得した単位の本学での 認定について | 28 |
| 資料 3-1-3-3.3 | 協定校からの外国人留学生が取得した単位の 母校での取扱いについて | 29 |

弘前大学における英語教育に関する基本方針

【趣旨】

弘前大学における英語教育については、現在、21世紀教育科目及び専門教育科目で実施している。

21世紀教育科目では、1年次前期に2単位（60授業時間）を、全学部学生について必修とし、1年次後期以降は、履修を希望する学生が適宜選択できることとしている。

専門教育科目では、1年次後期以降に、2～6単位（30～90授業時間）を必修または選択としている学部等があるが、開講していない学部等もある。

また、平成17年度及び平成19年度に実施した企業等アンケートでは、いずれも本学卒業生の英語などの外国語能力が高くないとの評価をされている。

全国的に見ても、教養教育における英語教育が2単位で完結している大学はほとんどなく、今後の国際化及び大学全入時代に対応するためにも、本学の英語教育を以下のとおりとすることを提言する。

I 21世紀教育科目

1. 履修年次及び単位数

全学部1年次4単位（120授業時間）必修を原則とする（前期2単位、後期2単位）。

2. 授業内容

必修4単位のうち、2単位は基礎的な読解力の育成を図るため、読解・作文を中心とした授業とし、他の2単位は、会話・聴解を中心とするクラスとする。

なお、具体的な授業内容及び授業科目名等については、21世紀教育センターが決定するものとする。

3. 受講者数

読解・作文を中心とするクラスは50名程度、会話・聴解を中心とするクラスは20～30名程度のクラス規模とし、詳細は21世紀教育センターが設定するものとするが、開講コマ数はできるだけ平成19年度から増加させないよう努める。

4. 卒業所要単位増に伴う取り扱い

21世紀教育科目の英語の必修単位が2単位増加することへの対応は、次のとおりとすることを原則とする。

(1) 適宜修得単位を4単位以上に設定している学部等については、適宜修得単位を2単位減じる。

(2) 適宜修得単位が2単位以下の学部等については、テーマ科目の単位（教育学部においては「基礎教育科目またはテーマ科目」から修得することとしている単位）を2単位減じる。

なお、テーマ科目の修得単位を減じることで、テーマ科目の修得方法の変更が必要となる場合は、21世紀教育センターと各学部等が協議のうえ、決定するものとする。

5. 開講時間帯

前期については、従前どおりとする。

後期については、前期と同じ曜日・時間帯で開講することを原則とするが、詳細については、21世紀教育センターが原案を作成のうえ、各学部等と協議のうえ決定する。

6. 実施時期

新たな英語の授業は、平成21年度入学者から適用する。

II 専門教育科目

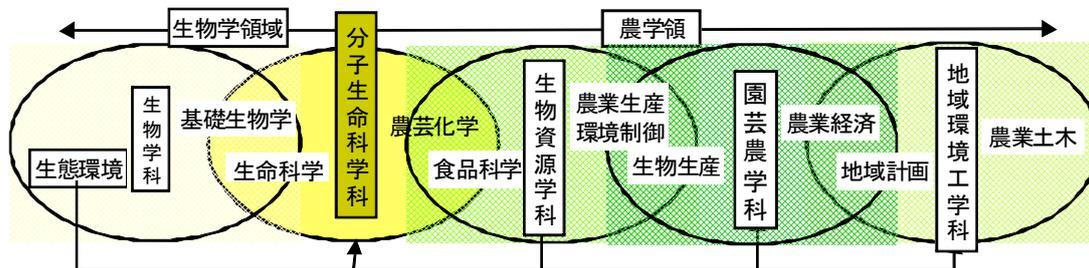
専門英語等を少なくとも2単位（30授業時間）必修とすることを原則とする。なお、具体的な授業開設等については、各学部等が決定するものとする。

（出典：「学士課程教育協議会（平成20年3月11日）資料」）

農学生命科学部再編に係る設置計画（抜粋）

Ⅱ 教育課程編成の考え方・特色

1. 学科・コース編成の基本的な考え方・特徴



学科名の両脇の名称は、その学科に含まれる専門教育分野

学士課程の教育組織

学士課程教育の目的を達成するために、基礎的教育組織（教育の枠組）として学科・コースを置く。

学科：各学科が教育分野の特性を明確にできるように関係専門分野を集合して学科を編成する。学科の規模は、きめ細かい教育指導ができ、かつ教育責任を負うに適した学生数を重視する。

コース：学生が専門分野に自己の立脚点を確立できるように、以下の視点から学科にコースを設置する。

- ① 早い段階から細かな専門分野に学生を囲い込むことなく、専門分野への学生の関心と選択を段階的に誘導するため、コースを置く（学科→コース→専門分野）。コース所属は3年次を標準とする。
- ② 専門基礎教育を段階的に深化させつつ、よりきめ細かい教育指導を行うためにコースを置く。

学科とコースの編成（「理農融合」教育）：学科・コースを基礎科学としての生物学から応用科学としての農学へ専門分野が隣接するように編成する。これによって、学生が自己の専門分野を立脚点に隣接・学際領域へ、生物学領域または農学領域へ関心を広げていくことによって、基礎科学の生物学から応用科学の農学までを学ぶことができるようにする。

2. カリキュラム編成の基本的な考え方・特徴

カリキュラム編成の基本方針

学部全体の教育理念・目標に沿って各学科がその専門性・自律性を発揮して学士教育課程の教育を効果的に進めることができるように、以下の方針によって各学科のカリキュラムを編成する。

- (1) 学士課程教育では、専門基礎教育を重視し、コア科目を導入する。コア科目は、専門基礎科目を主体とし、学科の学生が共通に学ぶべき科目（必修科目）である。

- (2) カリキュラムの軸に、入学時の基礎ゼミから実験・実習・演習・卒業研究まで学生が自ら課題に取り組む科目を置く。
- (3) 「学科→コース→専門分野」と進むのに対応して「基礎教育→専門基礎教育→専門教育」へと教育目的を段階的に積み上げる。これによって、学生が専門分野への自己の関心を段階的に集約しながら明確化・具体化し、専門分野に自己の立脚点を確立できるように、カリキュラムとガイダンスを通して指導する。
- (4) 隣接・学際領域への学生の関心が広がるように、1～2年次には隣接領域の科目を専門基礎として配し、3～4年次には自己の専門分野の視点から隣接・学際領域として関心を広げるようにカリキュラムを編成し、ガイダンス等によって指導する。
- (5) 「理農融合」教育を推進するために、各学科のカリキュラムを以下の方針を踏まえて編成する。
- ① 21世紀教育科目の「生物学の基礎」を学部指定科目として全学生に履修させる。
- ② 「農学生命科学概論Ⅰ」及び「農学生命科学概論Ⅱ」をコア科目（学部共通科目）として開設する。「農学生命科学概論Ⅰ」は、「生物学からみた農学」をテーマに基礎生物学、生態環境学、生命科学と農学との連携の実際と試み、課題を紹介する。「農学生命科学概論Ⅱ」は、「農学からみた生物学」をテーマに食資源生産に関わるバイオテクノロジー分野、作物・果樹・野菜などの食糧生産分野、土壌学や食品科学、農業経済学、農業工学など多様な農学分野と生物学との連携の実際と試み、課題を紹介する。
- 遺伝子、DNA・RNAなどの生物学の用語が遺伝子組み換え、DNA鑑定などのように食に関わっていまや日常語となっている。生物学と農学との融合はバイオテクノロジー分野を中心に急速に進んでいるが、人類の未来を左右する問題、環境とその多様性の保全、生命維持、食の安全や食糧資源問題なども生物学と農学との連携と協働を必要としている。
- 両科目は、生物学分野を学ぶ学生には農学を通して応用的・実学的視点を広げることの必要を、農学分野を学ぶ学生には生物学を応用的課題に活かす必要を理解させることを目的とする。両科目ともオムニバス形式で開講する。
- ③ 生物学系学科は関連する農学系科目を、農学系学科は関連する生物学系科目を各学科・コースの専門分野の隣接・学際領域の科目として取り入れる。
- (6) 学部・学科・コースの教育理念・目標が学生に十分に理解されるように、履修案内・シラバスを作成する他、入学時から学年進行ごとに履修ガイダンスを実施して履修を指導する。

平成21年度「教員養成総合実践演習Ⅰ」シラバス

授業科目名：教員養成総合実践演習Ⅰ

対象学生：4

必修・選択：選択

単位：2

学期：前期

曜日：集中

時限

担当教員（所属学部）：教員養成学研究開発センター教員

佐藤紘昭、和久秀樹、日景弥生、長崎秀昭、山田秀和、中野博之、福島裕敏、平岡恭一、村上和博（実践教授）、田中慶一（実践教授）、根深昌子（実践教授）、土岐智（実践教授）

授業としての具体的到達目標：①教員として最小限必要な「学習指導」、「生活指導」、「学級（HR）経営」、「組織・協働」等に関する知識・技能の習得を図る。

②教員になる上での自己課題を明確にし、自己目標を設定し取り組み、不足する知識・技能を補完・向上する。

授業の概要：①教員の主たる職務に関する基盤的知識・技能を習得し、有機的に活用する力量を形成すること主眼とし、演習を主体とした授業展開とする。

②4月～7月までの断続6日間、集中授業とする。

③火曜日9・10時限に講義及び演習題設定の趣旨説明。同週の土曜日に演習を行う。

④演習の形態は、グループ討議、模擬授業、役割演技、事例検討等とする。

授業の内容予定：①学級（HR）経営について

学級づくり、学級経営案の作成、学級・学校の生活

②学習指導について

担当教科の知識・技能、教科の指導力、創意工夫した教材づくり等基本的授業づくり

③生活指導について

生徒指導のねらい、領域・内容、課題、児童生徒理解等

④組織・協働について

学校の危機管理とその対応、分掌活動、家庭・地域との連携、保護者への対応等

教材・教科書：教科書は用いない。適宜、印刷資料・映像資料を準備する。

参考文献：適宜紹介する。

成績評価方法及び採点基準：授業への出席状況、演習への取り組み、自己課題解決への取り組み、レポートの内容等を複数の担当教員により多面的角度から総合的に評価する。

授業形式・形態および授業方法：基本的に〔講義・演習題提示ー自己研修・事前調査ー演習〕形式で実施する。

留意点・予備知識：

Eメールアドレス・オフィスアワー・HPアドレス：hsato@cc,hirosaki-u.ac.jp

（出典：弘前大学ホームページ「シラバス」）

資料1-1-1-7.1 インターンシップ参加者進路状況

| 平成19年度 | | | | | | 21,324卒業生、22,324卒業生 | | |
|--------|-----------|---------|-------------|-------|------------------------------|---------------------|-----|----------------------|
| 学 部 | 学 科・課 程 等 | 年 数 | 実 習 先 | 実 習 地 | 進 路 | 就職先/進学先 | | |
| 1 | 1 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | (株)東奥日報社 | 青森県 | 就職 | 北海道空港(株) |
| 2 | 2 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | (株)東奥日報社 | 青森県 | 就職 | (株)アクティス |
| 3 | 3 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | (株)東奥日報社 | 青森県 | 就職 | (株)しまむら |
| 4 | 4 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | (株)成田本店 | 青森県 | 就職 | JTSみちのく(株) |
| 5 | 5 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | あおりNPOサポートセンター | 青森県 | 就職 | 生活協同組合コープなの |
| 6 | 6 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | (株)東奥日報社 | 青森県 | 就職 | 日本生命保険相互会社 |
| 7 | 7 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | 弘前市役所 | 青森県 | 就職 | (医)清照会 湊病院 |
| 8 | 8 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | 青森市役所 | 青森県 | 就職 | (株)日本政策金融公庫 |
| 9 | 9 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | 八戸市役所 | 青森県 | 就職 | (株)横浜ファーマシー |
| 10 | 10 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | (株)東奥日報社 | 青森県 | 就職 | さくら野東北(株) |
| 11 | 11 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | 秋田魁新報社 | 秋田県 | 就職 | ファイザー(株) |
| 12 | 12 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | 弘前市役所 | 青森県 | 就職 | (株)田中事務所 |
| 13 | 13 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | ペンションワンダーランド | 青森県 | 就職 | (株)ゆうちょ銀行 |
| 14 | 14 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | (株)北海道新聞社 | 北海道 | 就職 | (株)北海道新聞社 |
| 15 | 15 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | (株)東奥日報社 | 青森県 | 就職 | (株)七十七銀行 |
| 16 | 16 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | (株)青森銀行 | 青森県 | 就職 | (株)青森銀行 |
| 17 | 17 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | (株)ビジネスブレイン | 青森県 | 就職 | キヤノンプレジジョン(株) |
| 18 | 18 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | 弘前大学 | 青森県 | 就職 | 青森県信用保証協会 |
| 19 | 19 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | ペンションワンダーランド | 青森県 | 就職 | 東奥信用金庫 |
| 20 | 20 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | (株)東奥日報社 | 青森県 | 就職 | (株)仙台進学プラザ |
| 21 | 21 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | (株)小野寺会計事務所 | 青森県 | 就職 | 青更町役場 |
| 22 | 22 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | (株)青森銀行 | 青森県 | 就職 | (株)損害保険ジャパン |
| 23 | 23 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | JICA東北青森デスク | 青森県 | 就職 | (株)リケン |
| 24 | 24 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | (株)若山経営 | 青森県 | 就職 | 国民生活金融公庫 |
| 25 | 25 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | (株)小野寺会計事務所 | 青森県 | 就職 | 北空知信用金庫 |
| 26 | 26 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | イマジン(株) | 青森県 | 就職 | (株)青森ダイハツモーターズ |
| 27 | 27 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | 青森県立美術館 | 青森県 | 休学 | |
| 28 | 28 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | (株)ユナイテッド・フグランス・オブ・インターナショナル | 青森県 | 就職 | 三菱スペース・ソフトウェア(株) |
| 29 | 29 | 教育学部 | 学校教育教員養成課程 | 3 | (株)八戸グランドホテル | 青森県 | 就職 | (株)横浜ファーマシー |
| 30 | 30 | 教育学部 | 生涯教育課程 | 3 | 岩木山自然学校 | 青森県 | 就職 | いわて生活協同組合 |
| 31 | 31 | 教育学部 | 生涯教育課程 | 3 | (株)協和コンサルタンツ | 宮城県 | 進学 | 弘前大学大学院教育研究科 |
| 32 | 32 | 理工学部 | 数理システム科学科 | 3 | マルキンアド(株) | 群馬県 | 就職 | ジェイアール東日本ネットロニクス(株) |
| 33 | 33 | 理工学部 | 数理システム科学科 | 3 | (株)東芝 | 東京都 | その他 | 海外ボランティア準備(JICA受験予定) |
| 34 | 34 | 理工学部 | 数理システム科学科 | 3 | 東和電機工業(株) | 青森県 | 就職 | ウェブテクノロジー(株) |
| 35 | 35 | 理工学部 | 物質理工学科 | 3 | アストラゼネカ(株)仙台支店 | 宮城県 | 進学 | 山形大学大学院 |
| 36 | 36 | 理工学部 | 地球環境学科 | 3 | 弘前航空電子(株) | 青森県 | 就職 | (株)青森銀行 |
| 37 | 37 | 理工学部 | 電子情報システム工学科 | 3 | 岩木山自然学校 | 青森県 | 就職 | 青森県職員 |
| 38 | 38 | 理工学部 | 電子情報システム工学科 | 3 | 三菱重工業(株) | 神奈川県 | 就職 | |
| 39 | 39 | 理工学部 | 電子情報システム工学科 | 3 | 弘前航空電子(株) | 青森県 | 就職 | 日立ソフトウェアエンジニアリング(株) |
| 40 | 40 | 理工学部 | 知能機械システム工学科 | 3 | (株)小山内バッテリー社 | 青森県 | 就職 | ナフテコ(株) |
| 41 | 41 | 農学生命科学部 | 生物機能科学科 | 3 | 栃木県農業試験場 | 栃木県 | 就職 | フタバ食品(株) |
| 42 | 42 | 農学生命科学部 | 生物機能科学科 | 3 | (株)東奥日報社 | 青森県 | 就職 | (株)陸奥新報社 |
| 43 | 43 | 農学生命科学部 | 応用生命工学科 | 3 | 弘前市役所 | 青森県 | 就職 | おいらせ農業協同組合 |
| 44 | 44 | 農学生命科学部 | 生物生産科学科 | 3 | 岩木山自然学校 | 青森県 | 就職 | (株)ビューティー花壇 |
| 45 | 45 | 農学生命科学部 | 生物生産科学科 | 3 | 弘前市役所 | 青森県 | 就職 | 岩手県職員 |
| 46 | 46 | 農学生命科学部 | 生物生産科学科 | 3 | (株)アマダ | 神奈川県 | 就職 | (株)アマダ |
| 47 | 47 | 農学生命科学部 | 生物生産科学科 | 3 | アストラゼネカ(株)仙台支店 | 宮城県 | 就職 | (株)トランスコスモステクノロジーズ |
| 48 | 48 | 農学生命科学部 | 生物生産科学科 | 3 | あおりNPOサポートセンター | 青森県 | 就職 | (株)サンワドー |

就職 43名、進学 2名、休学中 1名、その他 1名、計 47名

| 平成20年度 | | | | | | 22,324卒業生 | | |
|--------|-----------|---------|---------|-------|----------------------|-----------|----|------------------------|
| 学 部 | 学 科・課 程 等 | 年 数 | 実 習 先 | 実 習 地 | 進 路 | 就職先/進学先 | | |
| 1 | 1 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | 弘前大学 | 青森県 | 就職 | 佐渡市職員 |
| 2 | 2 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | (株)成田本店 | 青森県 | 就職 | (株)みちのく銀行 |
| 3 | 3 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | 札幌市役所 | 北海道 | 就職 | (株)あらた |
| 4 | 4 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | (株)成田本店 | 青森県 | 進学 | 弘前大学大学院 |
| 5 | 5 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | (株)サンデー | 青森県 | 就職 | (株)伊徳 |
| 6 | 6 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | (株)東奥日報社 | 青森県 | 就職 | キヤノンプレジジョン(株) |
| 7 | 7 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | NPO法人岩木山自然学校 | 青森県 | 就職 | 三菱電機ビルテクノサービス(株) |
| 8 | 8 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | 青森県地域労働就職支援機構 | 青森県 | 就職 | さくら野東北(株) |
| 9 | 9 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | (株)青森銀行 | 青森県 | 就職 | |
| 10 | 10 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | (株)青森銀行 | 青森県 | 就職 | 青い森鉄道(株) |
| 11 | 11 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | 青森県庁 | 青森県 | 就職 | 郵便事業(株) |
| 12 | 12 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | (株)東奥日報社 | 青森県 | 就職 | (株)東北銀行 |
| 13 | 13 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | (株)小野寺会計事務所 | 青森県 | 就職 | 五所川原街づくり(株) |
| 14 | 14 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | (株)東奥日報社 | 青森県 | 就職 | 上土幌町農業協同組合 |
| 15 | 15 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | (株)荘内銀行 | 山形県 | 就職 | 庄内たがが農業協同組合 |
| 16 | 16 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | 弘前市役所 | 青森県 | 就職 | 青森県職員 |
| 17 | 17 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | 青森県庁 | 青森県 | 就職 | 青森県職員 |
| 18 | 18 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | (株)東奥日報社 | 青森県 | 就職 | (株)マエダ |
| 19 | 19 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | (株)マエダ | 青森県 | 就職 | (学)上野教育学園 上野法政ビジネス専門学校 |
| 20 | 20 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | (株)荘内銀行 | 山形県 | 就職 | (株)かんぼ生命保険 |
| 21 | 21 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | 青森労働局(労働基準部) | 青森県 | 就職 | |
| 22 | 22 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | 弘前市役所 | 青森県 | 就職 | 裁判所 |
| 23 | 23 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | (株)ビジネスブレイン | 青森県 | 就職 | (株)コミット |
| 24 | 24 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | 弘前市役所 | 青森県 | 就職 | (株)青森電子計算センター |
| 25 | 25 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | (株)エースイー・インターナショナル | 滋賀県 | 就職 | 資生堂販売(株) |
| 26 | 26 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | (株)青森銀行 | 青森県 | 就職 | 明治安田生命保険相互会社 |
| 27 | 27 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | 北海道電力(株) | 北海道 | 就職 | (株)ロイズコンフェクト |
| 28 | 28 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | (株)鹿角パークホテル | 秋田県 | 就職 | |
| 29 | 29 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | (株)CFC | 秋田県 | 就職 | (株)秋田銀行 |
| 30 | 30 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | (株)カナリヤ | 北海道 | 就職 | (株)北海道銀行 |
| 31 | 31 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | 西仙北温泉インテ(株)ぬく森温泉ユメア | 秋田県 | 就職 | 秋田県農業協同組合中央会 |
| 32 | 32 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | 全労済北海道本部 | 北海道 | 就職 | (株)オーティンフーズ |
| 33 | 33 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | (株)青森銀行 | 青森県 | 就職 | |
| 34 | 34 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | 弘前航空電子(株) | 青森県 | 就職 | 極東開発工業(株) |
| 35 | 35 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | (株)オリエンタルコンサルタンツ東北支店 | 宮城県 | 就職 | (株)山形銀行 |
| 36 | 36 | 人文学部 | 経済経営課程 | 3 | 弘前市役所 | 青森県 | 就職 | 青森県警察 |
| 37 | 37 | 教育学部 | 生涯教育課程 | 3 | 弘前大学 | 青森県 | 就職 | 青森県警察 |
| 38 | 38 | 教育学部 | 生涯教育課程 | 3 | 青森市役所 | 青森県 | 就職 | 東日本旅客鉄道(株) |
| 39 | 39 | 教育学部 | 生涯教育課程 | 3 | NPO法人あおりNPOサポートセンター | 青森県 | 就職 | 青い森信用金庫 |
| 40 | 40 | 教育学部 | 生涯教育課程 | 3 | 弘前市役所 | 青森県 | 就職 | (株)管文 |
| 41 | 41 | 理工学部 | 物質創成化学科 | 3 | 日本原燃(株) | 青森県 | 進学 | 弘前大学大学院 |
| 42 | 42 | 理工学部 | 物質創成化学科 | 3 | 弘前市役所 | 青森県 | 進学 | 弘前大学大学院 |
| 43 | 43 | 理工学部 | 物質創成化学科 | 3 | ニッコー(株) | 青森県 | 進学 | 弘前大学大学院 |
| 44 | 44 | 理工学部 | 物質創成化学科 | 3 | ニッコー(株) | 青森県 | 進学 | 弘前大学大学院 |
| 45 | 45 | 理工学部 | 地球環境学科 | 3 | ニッコー(株) | 青森県 | 就職 | 日立公共システムエンジニアリング(株) |
| 46 | 46 | 理工学部 | 地球環境学科 | 3 | ニッコー(株) | 青森県 | 進学 | 名屋大学大学院 |
| 47 | 47 | 理工学部 | 電子情報工学科 | 3 | ニッコー(株) | 青森県 | 就職 | 日本鉄道電気設計(株) |
| 48 | 48 | 農学生命科学部 | 生物生産科学科 | 3 | (株)ビジネスブレイン | 青森県 | 就職 | (株)井せき東北 |
| 49 | 49 | 農学生命科学部 | 生物生産科学科 | 3 | (株)小野寺会計事務所 | 青森県 | 就職 | (株)フードサービスネットワーク |

| 個人参加 | | | | | | | | |
|------|-----------|------|-----------|-------|------------------------|---------|----|------------|
| 学 部 | 学 科・課 程 等 | 年 数 | 実 習 先 | 実 習 地 | 期 間 | 就職先/進学先 | | |
| 1 | 1 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | 会津若松市役所 | 福島県 | 就職 | JUKI(株) |
| 2 | 2 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | (株)陸奥新報社 | 青森県 | 就職 | (株)アイウォーク |
| 3 | 3 | 人文学部 | 人間文化課程 | 3 | 日本ロジテム(株) | 東京都 | 就職 | (株)三協 |
| 4 | 4 | 人文学部 | 現代社会課程 | 3 | 青森市役所 | 青森県 | 就職 | 警視庁 |
| 5 | 5 | 人文学部 | 現代社会課程 | 4 | NPO法人シュニアグローバルレニングスクール | 青森県 | 就職 | (株)仙台進学プラザ |
| 6 | 6 | 教育学部 | 生涯教育課程 | 4 | (株)マインドゲームス | 青森県 | 就職 | ナイスクラブ |
| 7 | 7 | 大学院 | 農学生命科学研究科 | M1 | NPO法人弘前こどもコミュニティ・びーふる | 青森県 | 就職 | 山形県職員 |

就職 46名、進学 6名、計 52名

卒業生・企業等へのアンケート結果

II. 調査項目 弘前大学卒業生の印象、本学に求めることなどをお伺いいたします。

2. 弘前大学卒業生の印象について、どのように評価されますか。

仕事に対する知識・基礎学力

| | 回答数 | 比率 |
|--------------------|-----|------|
| 5:優れている | 16 | 15% |
| 4:どちらかと言えば、やや優れている | 51 | 46% |
| 3:普通 | 28 | 25% |
| 2:どちらかと言えば、やや劣る | 1 | 1% |
| 1:劣る | 0 | 0% |
| 無回答 | 14 | 13% |
| 合計 | 110 | 100% |

仕事に対する理解・判断力

| | 回答数 | 比率 |
|--------------------|-----|------|
| 5:優れている | 24 | 22% |
| 4:どちらかと言えば、やや優れている | 56 | 51% |
| 3:普通 | 15 | 14% |
| 2:どちらかと言えば、やや劣る | 1 | 1% |
| 1:劣る | 0 | 0% |
| 無回答 | 14 | 13% |
| 合計 | 110 | 100% |

仕事に対する職務遂行能力

| | 回答数 | 比率 |
|--------------------|-----|------|
| 5:優れている | 17 | 15% |
| 4:どちらかと言えば、やや優れている | 57 | 52% |
| 3:普通 | 21 | 19% |
| 2:どちらかと言えば、やや劣る | 1 | 1% |
| 1:劣る | 0 | 0% |
| 無回答 | 14 | 13% |
| 合計 | 110 | 100% |

対人関係、仕事の協調性

| | 回答数 | 比率 |
|--------------------|-----|------|
| 5:優れている | 17 | 15% |
| 4:どちらかと言えば、やや優れている | 42 | 38% |
| 3:普通 | 33 | 30% |
| 2:どちらかと言えば、やや劣る | 4 | 4% |
| 1:劣る | 0 | 0% |
| 無回答 | 14 | 13% |
| 合計 | 110 | 100% |

コミュニケーション能力

| | 回答数 | 比率 |
|--------------------|-----|------|
| 5:優れている | 14 | 13% |
| 4:どちらかと言えば、やや優れている | 44 | 40% |
| 3:普通 | 34 | 31% |
| 2:どちらかと言えば、やや劣る | 4 | 4% |
| 1:劣る | 0 | 0% |
| 無回答 | 14 | 13% |
| 合計 | 110 | 100% |

責任感・粘り強さ・誠実性

| | 回答数 | 比率 |
|--------------------|-----|------|
| 5:優れている | 28 | 25% |
| 4:どちらかと言えば、やや優れている | 45 | 41% |
| 3:普通 | 23 | 21% |
| 2:どちらかと言えば、やや劣る | 0 | 0% |
| 1:劣る | 0 | 0% |
| 無回答 | 14 | 13% |
| 合計 | 110 | 100% |

外国語(英語など)の能力

| | 回答数 | 比率 |
|--------------------|-----|------|
| 5:優れている | 4 | 4% |
| 4:どちらかと言えば、やや優れている | 12 | 11% |
| 3:普通 | 70 | 64% |
| 2:どちらかと言えば、やや劣る | 8 | 7% |
| 1:劣る | 1 | 1% |
| 無回答 | 15 | 14% |
| 合計 | 110 | 100% |

パソコン操作等の能力

| | 回答数 | 比率 |
|--------------------|-----|------|
| 5:優れている | 7 | 6% |
| 4:どちらかと言えば、やや優れている | 33 | 30% |
| 3:普通 | 56 | 51% |
| 2:どちらかと言えば、やや劣る | 0 | 0% |
| 1:劣る | 0 | 0% |
| 無回答 | 14 | 13% |
| 合計 | 110 | 100% |

(出典:弘前大学ホームページ「弘前大学卒業生に対するアンケート調査結果及び企業等に対するアンケート集計結果の検証について」)

「外部評価報告書」等を踏まえた平成22年度入試における改善承認事項

1 個別学力検査入学試験問題（以下「入学試験問題」という。）の作成から責了、試験当日までのチェック体制及び作業内容の改善

（1）入学試験問題の点検の強化

- ① 出題委員は、試験問題作成時に実際に解答する。そのことを確認するため、「入試問題等提出シート」に試験問題を実際に解答したことを確認する項目を追加する。
- ② 点検委員を増員する。原則2名。
- ③ 点検委員は、試験問題を実際に解答する。そのことを確認するため、「入試問題等点検シート」に試験問題を実際に解答したことを確認する項目を追加する。
- ④ 点検委員からの指摘事項について、出題委員は文書で点検委員に回答する。

（2）入学試験問題印刷及び分封作業への教員の関与

- ① 「問題冊子」、「解答用紙」の学内印刷への教員の関与
 入学試験問題の学内印刷（前期日程：小論文（教育学部）、後期日程：数学、理科、小論文（教育学部、医学部保健学科））は入試課職員が行っている。
 入学試験問題の適正な管理の観点から、入学試験委員会委員及び小論文主任（教育学部、医学部保健学科）が立ち会う。
- ② 入学試験問題（前期日程、後期日程）分封作業への教員の関与
 入学試験問題（前期日程、後期日程）の分封作業は入試課職員らが行っている。
 入学試験問題の適正な管理の観点から、入学試験委員会委員が立ち会う。

（3）平成23年度入試以降のための報告書、引継の徹底

- ① 出題ミスの報告書の作成
 出題ミスが発生した場合、科目主任等は副学長（教育・学生担当理事）に問題点等について報告する。
- ② 引継ぎの徹底
 教科委員、科目主任、出題グループ長及び総合問題主任は、入学試験問題作成過程で生じた、問題点及び注意事項等を整理し、次年度の担当者に引継ぎを行う。

2 入学試験問題等の分封から解答（答案）用紙の回収までの業務実施体制と作業内容の改善

（1）「解答（答案）用紙」の配付・回収方法などの改善

印刷業者が印刷した入学試験問題の「解答用紙」は、複数枚（科目によっては一人当たり最多8枚）となっている。

複数枚（偶数枚）の「解答用紙」を一つにまとめて二つ折りにして効率的に配付する。

監督者は、「解答用紙」を受験者に配付した後、受験者は監督者の指示により解答する必要がない「解答用紙」を抽出する。監督者はそれを回収してから試験を開始する。

（2）試験開始・終了の合図

試験開始及び終了の時刻は、各教科・科目の試験開始・終了時刻が統一されていないため、試験開始又は終了の合図のチャイムが鳴る、鳴らない場合があった。また、「問題冊子」、「解答用紙」の配付に多くの時間を要したことにより、試験開始のチャイムの合図が鳴るまでに「問題冊子」、「解答用紙」を配付し終わらない事例が報告されている。

受験者及び監督者の混乱及び正規の試験時間を確実に確保するため、試験開始及び終了の合図はチャイムではなく、監督者の時計により行う。

（3）構内警備の外注化などによる入試業務体制の強化

試験当日の構内警備は、職員が行っているが、業務従事者を確保するため警備会社に警備業務を委託する。

（出典：入学試験委員会（平成21年12月24日）資料）

学部ごとの成績評価基準

◎人文学部「成績評価の基準」

成績は、出席状況、平常の学習、試験・レポートの結果などから総合的に評価されます。成績評価でどのような点が重視されるかは、それぞれの科目についてシラバスを参照してください。成績は次の5段階で評価されます。「不可(D)」の場合は、修得単位数はゼロです。

| 評価 | 秀(S) | 優(A) | 良(B) | 可(C) | 不可(D) |
|----|----------|---------|---------|---------|-------|
| 評点 | 100点～90点 | 89点～80点 | 79点～70点 | 69点～60点 | 59点以下 |

◎教育学部「履修科目の評価」

履修科目の成績評価については、弘前大学教育学部規程第17条及び第18条に規定されているが、以下の点に注意すること。

- 履修した授業科目の成績は、担当教員が出席状況と試験、レポート等によって評価し、60点以上を合格として所定の単位を与える。なお、各授業科目について、総授業時数に対し出席時数が3分の2以下の者は、原則として評価の対象としない。
- やむを得ない事情により所定の試験を欠席した者は、追試験願いを提出することができるので、教育学部教務担当まで申し出ること。
- 成績通知表には履修科目の評価結果を次の標語によって示す。
秀(S): 90～100点 優(A): 80～89点 良(B): 70～79点
可(C): 60～69点 不可(D): 59点以下、不合格

◎医学部保健学科「成績評価について」

成績は、出席状況、試験、レポート等の結果に基づき総合的に評価されます。なお、成績は次の5段階で評価されますが、不可は不合格です。

| 評価 | 秀 | 優 | 良 | 可 | 不可 |
|----|----------|---------|---------|---------|-------|
| 評点 | 100点～90点 | 89点～80点 | 79点～70点 | 69点～60点 | 59点以下 |

◎理工学部「成績評価基準」

理工学部専門教育科目(教職に関する科目を除く)の成績評価基準を次のとおり定め、平成20年4月1日から適用する。

- 講義・演習・実験・実習
 - 期末試験だけで評価するのではなく、平常評価と期末評価を総合して評価する。
なお、演習・実験・実習では平常評価のみでも行えるものとする。
 - 平常評価は、小テスト、ミニレポート(宿題)、平常の発表等で行う。
 - 期末評価は、期末試験、期末レポート、期末発表等で行う。

◎農学生命科学部「専門教育科目の成績評価について」

- 評価の方法について
筆記試験、レポート、口頭発表等により行います。
- 成績の評価について
秀(100～90点) 優(89～80点) 良(79～70点) 可(69～60点) 不可(59点以下)
として、不可は不合格となります。前期は4月中、後期は10月中に履修取消の届を学部教務に提出した場合は、履修しなかった者として扱うことになります。
評価基準

| 評価 | 評価内容 |
|----|----------------------|
| 秀 | 特に優れた成績を示した |
| 優 | 優れた成績を示した |
| 良 | 妥当と認められる成績を示した |
| 可 | 合格と認められる最低限度の成績を示した |
| 不可 | 合格と認められるに足る成績を示さなかった |

(出典：各学部シラバス・履修案内等)

農学生命科学部学生のアンケート結果

授業科目名:農学生命科学概論Ⅱ
対象:農学生命科学部 2年次学生
回答数:142

■白神自然観察園でのフィールド体験学習に対する学生からの意見

- 実際にフィールドに出て体験しながら学習できたこと。
- とてもよく組立られたスケジュールで分り易いと思いました。
- 実際に自然の中に実習をしに行くことで学校の中だけでは分らないことが体験できた。
- 白神山地を中心とした自然・文化を集中的に学ぶことができた。
- 講義で学んだ内容を実際に体験できたのがよかった。どちらの講義も活かされていて良かった。
- スケジュールが守られていた。普段できない体験型の講義で知識を得ることができたこと。
- 実際に現地に行ってみる様子を見ることができた。
- 普段体験できないことを体験できた点。
- いい体験ができてよかった。
- スケジュール通りに進んだこと。
- いろいろな場所に行けたこと。
- ダムや白神山地など体験することができたので良かった。
- 分子生命科学科ではできない土壌生物の採取、観察ができたこと。
- 大自然に囲まれるところ。
- めったにない体験ができた。
- 白神山地には、なかなか行けないので、良い機会だったと思う。弘前大学の施設ができることも知って良かった。
- 実際に見て学べた。
- 白神に行けた。
- 普段行うことのないフィールドワーク形式の授業で新鮮な感じで良かった。
- 運良く、ネズミが3種類みれて良かった。
- いろいろ勉強になった。
- 普段見ることがない植物・動物を間近でみれたこと。教室で授業されるより、記憶に残るし考えることが多かったと思う。

文系図書・資料購入について

資料管理グループ係長 三上 豊

附属図書館では、人文学、社会科学、教育学の分野において、国立大学として教育研究の学術基盤の向上のために附属図書館図書選定委員会に「文系図書・資料選定ワーキンググループ」(長谷川成一附属図書館長ほか5名)を設けた。ワーキンググループ委員のほか、各専門分野におけるエキスパートの先生方にも御協力いただき、図書・資料類の調査・選定作業を行った。また、附属図書館の蔵書は、継続的に刊行される叢書類の欠本が多く、コレクションとしても大きな欠陥を抱えているため、欠本の調査・選定作業を合わせて行った。選定資料にはマイクロフィルム、マイクロフィッシュ、CD-ROM、DVDなども含めた。

この結果を基に文系図書・資料整備5ヶ年計画を策定し、この整備計画を遂行するための経費を大学側に要求し、平成20年度より整備することが認められた。

今後、この整備した文系図書・資料を多くの教員・学生の皆さんに活用していただき、教育、研究、学習の向上につなげていただきたい。

平成20年度整備した文系図書・資料のリストをWebに掲載し、その一例を下記に挙げる。

(リスト掲載 http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/pub/housen/30/housen30_bunkei.pdf)

(みかみ ゆたか)

文系図書・資料購入リスト【平成20年度整備】の一例

1. 叢書・資料類【図書】 (合計 1,448 冊)

| 選定分野 | 書名 | 発行所 | 出版年 | 数量 |
|---------|----------------------------|----------|-----------|-------------------|
| 総記 | 学ぶ人のために 1967年～2003年刊行分 | 世界思想社 | 1967-2003 | 96 ^(冊) |
| 哲学・倫理学 | 中村元選集 全32巻;別巻1-8 | 春秋社 | 1988 | 40 |
| 心理学 | 臨床心理学全書 1-11 | 誠信書房 | 2003-2005 | 11 |
| 東洋思想・仏教 | 真言宗全書 全42巻・付解題・索引 | 平凡社出版販売 | 2008 | 44 |
| 考古学 | 考古資料大観 全12巻 | 小学館 | 2002 | 12 |
| 地理学 | シリーズ人文地理学 1-6,8-10 | 朝倉書店 | 2003-2005 | 9 |
| 法学 | 日本立法資料全集 2～ | 信山社 | 1992-2009 | 68 |
| 教育学 | 社会・生涯教育文献集 I-VI(1-60;別冊6冊) | 日本図書センター | 1999-2001 | 66 |
| 社会学 | 日本労働運動資料集成 | 旬報社 | 2007 | 14 |
| 民俗学 | 宮本常一著作集 32-50, 別集9-10,15 | 未来社 | 1986-2009 | 22 |
| 体育 | スポーツ文化論シリーズ 全14巻 | 創文企画 | 1993-2005 | 14 |
| 日本文学 | 節用集大系 第1-100巻, 翻字集 | 大空社 | 1993-1996 | 101 |

2. 叢書・資料類【DVD, CD-ROM, マイクロフィルム】 (合計 97 点)

| | | | | |
|-----|--------------------------|--------|------|----|
| 日本史 | 古田良一文庫「海事関係資料」【マイクロフィルム】 | 雄松堂出版 | 2006 | 39 |
| 芸術 | 國華 / 朝日新聞社編集 第1期【DVD】 | 朝日新聞出版 | 2003 | 2 |

3. 欠本補充が必要な図書 (合計 721 冊)

| | | | | |
|---------|-----------------------------|---------|-----------|-----|
| 東洋思想・仏教 | 大日本佛教全書第1-30,34-61,63-69巻 他 | 大法輪閣 | 2007 | 128 |
| 法学 | 日本比較法研究所研究叢書 10,12-14 他 | 中央大学出版部 | 1987-2009 | 56 |

(出典：弘前大学附属図書館報「豊泉」No.30 p.9(平成21年11月30日発行))

弘前大学出版会出版実績（平成20・21年度）

| 書名 | 著者名 | 判型 | 頁数 | ISBN・ISSN | 分類 | テスト | 発行日 |
|-----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|----|-----|-------------------|-------|-----|-----------|
| Music Education Policy and Implementation: International Perspectives | Chi Cheung LEUNG / Lai Chi Rita YIP / 今田匡彦<編> | B5 | 261 | 978-4-902774-39-9 | C3073 | | H20.06.13 |
| 白神研究 第5号 | 弘前大学白神研究会<編> | A4 | 49 | 1349-7480 | - | | H20.06.30 |
| 情報系の確率・統計 | 吉岡 良雄<著> | B5 | 106 | 978-4-902774-41-2 | C3041 | ○ | H20.09.24 |
| 未利用バイオマスとしてのりんご剪定枝の活用戦略 | 弘前大学農学生命科学部附属未利用バイオマス研究センター<編著> | A5 | 55 | 978-4-902774-40-5 | C3061 | | H20.09.30 |
| 白神山の魅力（初版） | 弘前大学農学生命科学部附属白神山地有用資源研究センター<編> | A4 | 72 | 978-4-902774-42-9 | C6045 | | H20.10.31 |
| 弘大ブックレット№.5 津軽から発信！国際協力キャリアを生きる JICA編 | 弘前大学人文学部 甘本英雄ゼミ4年 赤平大寿 / 近藤麻衣 / 富岡昂 / 吉田美沙都<編>、甘本英雄 / 佐藤菜穂子<監修> | A5 | 108 | 978-4-902774-43-6 | C1036 | | H20.12.06 |
| 小学専門科学実験の手引き 2009年度版 | 弘前大学教育学部小専科学実験WG<編> | A4 | 102 | 978-4-902774-44-3 | C3040 | ○ | H21.03.23 |
| 国立大学法人弘前大学仕事のしおり 平成21年度版 | 弘前大学財務・施設担当理事 小川清四郎<編> | A4 | 286 | 978-4-902774-45-0 | C3034 | | H21.03.30 |
| 弘前医学 第60巻第1-4号 | 弘前大学大学院医学研究科<編> | A4 | 124 | 0439-1721 | - | | H21.03.31 |
| 地域の環境と生活の実験演習（初版） | 弘前大学教育学部<編> | A4 | 43 | 978-4-902774-46-7 | C3040 | ○ | H21.05.12 |
| 弘前大学創立六十周年記念ビジュアル版 写真で見る弘前大学 | 弘前大学創立60周年記念事業運営委員会60年史編纂専門委員会<編> | A4 | 50 | - | - | | H21.05.31 |
| 弘前大学歴代学長告辞集 | 弘前大学出版会<編> | A5 | 556 | - | - | | H21.06.06 |
| 弘前大学六十年史 通史・資料編 | 弘前大学創立60周年記念事業運営委員会60年史編纂専門委員会<編> | A5 | 400 | - | - | | H21.06.06 |
| 写真集 続 弘前界隈 | 今泉 忠淳<著> | A5 | 50 | 978-4-902774-47-4 | C0072 | | H21.06.26 |
| 官立弘前高等学校資料目録ー北浜の学舎の資料群ー | 弘前大学附属図書館<編> | B5 | 94 | 978-4-902774-49-8 | C3020 | | H21.06.30 |
| 白神研究 第6号 | 弘前大学白神研究会<編> | A4 | 50 | 1349-7480 | - | | H21.06.30 |
| 弘大ブックレット№.6 まち育てのススメ | 北原 啓司<著> | A5 | 64 | 978-4-902774-48-1 | C1036 | | H21.07.23 |
| Voices from the Snow | James N. Westervoven<編訳> | A5 | 285 | 978-4-902774-50-4 | C0098 | | H21.09.14 |
| 教師のための紫外線講座ー紫外線が子どもをわらうー | 花田 勝美<著> | A5 | 88 | 978-4-902774-51-1 | C1047 | | H22.01.13 |
| 小学専門科学実験の手引き 2010年度版 | 弘前大学教育学部小専科学実験WG<編> | A4 | 106 | 978-4-902774-52-8 | C3040 | ○ | H22.03.23 |
| 新たな明日へ 弘前大学創立60周年記念 学生参加事業写真集 | 学生中央委員会<編> | A4 | 61 | 978-4-902774-57-3 | C0072 | | H22.03.23 |
| 幻灯夢ー弘前大学『言語力』大賞作品集ー | 弘前大学附属図書館<編> | 四六 | 143 | 978-4-902774-54-2 | C0091 | | H22.03.24 |
| 弘前医学第61巻第1号 | 弘前大学大学院医学研究科<編> | A4 | 85 | 0439-1721 | - | | H22.03.25 |
| グローバル下の北東北地域ー地域経済・財政・住民福祉の現状ー | 神田 健策 / 井上 博夫<編著> | A5 | 244 | 978-4-902774-53-5 | C3033 | | H22.03.29 |
| 国立大学法人弘前大学 知的財産取扱いの手引き | 弘前大学の財産本部・地域共同研究センター・学術情報部社会連携課<編> | A5 | 124 | 978-4-902774-59-7 | C3032 | | H22.03.29 |
| ハワードウェア設計・演習（基礎からプロセッサ設計まで） | 吉岡 良雄 / 一條 健司<著> | B5 | 102 | 978-4-902774-58-0 | C3055 | ○ | H22.03.30 |
| 白神山地で活躍する人々ー観光編ー | 弘前大学白神自然観察園<編> | A4 | 58 | 978-4-902774-60-3 | C6045 | | H22.03.31 |
| ノーベル医学・生理学賞に見る 現代西洋医学の系譜ー弘前大学医学部分館展示室完成記念特別展図録ー | 松木明知<編> | A4 | 188 | 978-4-902774-55-9 | C3647 | | H22.03.31 |
| A Paean to Sir William Osler サー・ウィリアム・オスラー展図録ー | 松木明知<編集・解説> | A4 | 170 | 978-4-902774-56-6 | C3647 | | H22.03.31 |

研究インターンシップ派遣実績（平成20・21年度）

| | 実施機関（人数） | |
|----------|-----------------|-----|
| 平成 20 年度 | 東北農業研究センター | （1） |
| | 秋田県立大学木材高度加工研究所 | （1） |
| | カナダ・サスカチュワン大学 | （3） |
| 平成 21 年度 | 東北農業研究センター | （1） |
| | 北海道農業研究センター | （1） |
| | 東北大学大学院生命科学研究所 | （1） |
| | 弘前大学農学生命科学部 | （1） |
| | カナダ・サスカチュワン大学 | （2） |
| | スコットランド・ダンディー大学 | （1） |
| | ドイツ・ゲーテ大学 | （1） |

※研究インターンシップとは、自分の研究室を飛び出して他機関の研究員や教員と意見交換をしたり、成果発表会で議論したりすることを通じて、課題探求能力、創造性豊かな研究能力、コミュニケーション能力等を身につけることを企図した科目。

弘前大学学生担任制度に関する要項

〔平成21年2月20日〕
教育・学生委員会承認

(目的)

第1 弘前大学(以下「本学」という。)は、本学学生の大学における学習や生活等の相談に対し、具体的に指導・助言することにより学生の大学生活の支援を強化し、もって優れた人材として社会に送り出すことを目的として、学生担任制度を設ける。

(学生担任制度)

第2 各学部は、学生の学習及び生活全体の指導を行うため、クラスを編成し、各クラスに担任教員を配置する。

2 各学部はクラスアワー等を設け、クラス担任教員と学生及び学生相互の人的交流の場とし、本学の教育活動、学生生活等に対する学生の意向反映の場とする。

3 各学部が編成するクラスの規模は、学科・課程等の単位又は教育活動の形態等を考慮し、適正な人員とする。

4 各学部は、原則として複数教員が学生の指導に当たる態勢をとる。

(クラス担任教員の任務)

第3 クラス担任教員は、次に掲げる任務を行う。

(1) 学生の相談に応じ、又はその窓口として指導及び助言に当たること

(2) 本学の運営に関し、必要な事項を学生に周知すること

(3) 学生の意見を聞き、本学の運営に資すること

(4) 学生から「面談シート」を毎学期始めの面談時に提出させ、学生が修学上・生活上において悩みなどがないか確認し、必要であれば関係窓口と相談すること

※「面談シート」と同等のものが既にあれば、それで代えてもよい。「面談シート」の様式は、各学部で自由に変更してもよい。

また、保管については、各学部の事情により取扱いは任せるが、個人情報の取扱いには、十分注意願いたい。

(その他)

第4 この要項に定めるもののほか、学生担任制度に関する必要な事項は別に定める。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

この要項は、平成21年4月1日から施行する。ただし、平成20年度以前の入学者及び平成20年度以前の入学者の属する年次に転学又は再入学する者については、改正後の第3第4号の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(出典：「教育・学生委員会(平成21年2月20日)資料」)

キャリア教育履修学生の進路状況

| | | 仕事を通して考える A | 仕事を通して考える B | キャリアデザイン論 C | コミュニケーション力 D | 計 |
|-------|-----------------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|-------|
| 21.3卒 | 卒業者(W) | 137 | 12 | 1 | 0 | 150 |
| | 就職(X) | 107 | 10 | 0 | 0 | 117 |
| | 進学(Y) | 22 | 2 | 1 | 0 | 25 |
| | その他(Z) | 7 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| | 未就職 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 就職率 (X/(W-Y-Z), %) | 99.1% | 100.0% | — | — | 99.2% |
| 22.3卒 | 卒業者(W) | 280 | 24 | 13 | 4 | 321 |
| | 就職(X) | 216 | 22 | 12 | 4 | 254 |
| | 進学(Y) | 44 | 2 | 1 | 0 | 47 |
| | その他(Z) | 14 | 0 | 0 | 0 | 14 |
| | 未就職 | 6 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | 就職率 (X/(W-Y-Z), %) | 97.3% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 97.7% |

弘前大学特別研究助成制度（博士後期課程）

目 的

博士後期課程に入学した学生のうち、最先端研究やユニークな研究に対して、研究助成金を給付し、研究助成を行うことを目的とし、創設する。

対象者 研究科博士後期課程入学者 毎年20名
(医学研究科、保健学研究科、理工学研究科、岩手大学大学院連合農学研究科弘前大学配属生、地域社会研究科)

事業期間 毎年

研究助成金 一人50万円 (年間1,000万円)

原 資 寄附金(活性化経費)

選 考 各研究科から推薦された入学者(授業料免除者を除く。)について、学長が認定する。

授 与 学長が認定状を交付する。

以上

弘前大学機関研究の採択状況について

弘前大学機関研究は、本学がこれまで実施してきた学長指定重点研究や特定プロジェクト教育研究センターなどの取組を踏まえ、重点研究の在り方をより明確にし、またそれぞれの研究成果をより効率的、統一的に発展させることを目的に研究費を重点配分している。機関研究に選定された研究は、全学的な支援のもと、大型の競争的資金の獲得に向けた研究を推進し、研究拠点の形成及び地域の産業活性化と振興を目指す。

なお、機関研究になりうると期待できる研究課題を学長指定重点研究(特定研究)に、地域に関連した課題で時宜を得た研究課題を学長指定重点研究(地域研究)に指定して研究費を配分している。

| 平成20年度 採択課題 | | | | | |
|-------------|-------|-------|----------|--------------------------------------|-------------|
| 【機関研究】 | | | | | |
| 部局名 | 研究代表者 | | 研究領域 | 研究課題名 | 配分額 (千円) |
| | 職名 | 氏名 | | | |
| 保健学研究科 | センター長 | 柏倉 幾郎 | ライフサイエンス | 放射線個体差感受性規定因子の解明と感受性診断法及び再生治療法開発への応用 | 8,000 |
| 理工学研究科 | センター長 | 吉澤 篤 | ライフサイエンス | 機能創成を目的とした新規液晶材料の研究 | 2,350 |
| 理工学研究科 | センター長 | 牧野 英司 | ライフサイエンス | 安全と健康をみまもる動態センシングシステムの開発 | 7,500 |
| 【学長指定重点研究】 | | | | | |
| ○特定研究 | | | | | |
| 部局名 | 研究代表者 | | 研究領域 | 研究課題名 | 配分額 (千円) |
| | 職名 | 氏名 | | | |
| 医学研究科 | 教授 | 若林 孝一 | ライフサイエンス | 難治性脳疾患の統合的病態解析と根本的治療法の開発 | 4,000 |
| 農学生命科学部 | センター長 | 姫野 俵太 | ライフサイエンス | RNAから見た生命システムの新視点 | 4,000 |
| ○地域研究 | | | | | |
| 部局名 | 研究代表者 | | 研究領域 | 研究課題名 | 配分額 (千円) |
| | 職名 | 氏名 | | | |
| 農学生命科学部 | 教授 | 橋本 勝 | ライフサイエンス | 弘前大学における遺伝子資源の知的財産化 | 1,000 |
| 人文学部 | センター長 | 関根 達人 | 人文・社会科学 | 亀ヶ岡文化研究に基づく教育基盤の充実と地域文化の創成 | 1,000 |
| 人文学部 | 准教授 | 李 永俊 | 人文・社会科学 | 都市に暮らす地方出身の若者の就業状況と地元意識に関する調査研究 | 2,000 |

| 平成21年度 採択課題 | | | | | |
|-------------|-------|-------|--------------------------------------|-------------|--|
| 【機関研究】 | | | | | |
| 部局名 | 研究代表者 | | 研究課題名 | 配分額 (千円) | |
| | 職名 | 氏名 | | | |
| 人文学部 | 准教授 | 関根 達人 | 亀ヶ岡文化研究に基づく教育・研究基盤の充実と地域文化の創成 | 8,000 | |
| 大学院医学研究科 | 教授 | 若林 孝一 | 難治性脳疾患の統合的病態解析と根本的治療法の開発 | 8,000 | |
| 大学院保健学研究科 | 教授 | 柏倉 幾郎 | 放射線個体差感受性規定因子の解明と感受性診断法及び再生治療法開発への応用 | 8,000 | |
| 大学院理工学研究科 | 教授 | 牧野 英司 | 安全と健康をみまもる動態センシングシステムの開発 | 7,500 | |
| 大学院理工学研究科 | 教授 | 吉澤 篤 | 機能創成を目的とした新規液晶材料の研究 | 3,700 | |
| 【学長指定重点研究】 | | | | | |
| ○特定研究 | | | | | |
| 部局名 | 研究代表者 | | 研究課題名 | 配分額 (千円) | |
| | 職名 | 氏名 | | | |
| 農学生命科学部 | 教授 | 姫野 俵太 | RNAから見た生命システムの新視点 | 4,000 | |
| ○地域研究 | | | | | |
| 部局名 | 研究代表者 | | 研究課題名 | 配分額 (千円) | |
| | 職名 | 氏名 | | | |
| 大学院理工学研究科 | 教授 | 伊東 俊司 | テラヘルツ領域への技術革新をめざした低環境負荷高機能材料の開発 | 2,000 | |
| 農学生命科学部 | 教授 | 橋本 勝 | 弘前大学における遺伝子資源の知的財産化 | 3,800 | |

弘前大学における学内研究助成事業の実施状況

| 制度の目的 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 |
|-------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ★研究グループ支援 ○研究拠点形成の支援 | 【H19制度創設】 弘前大学機関研究制度 (助成内容) ・機関研究 該当なし ・学長指定重点研究 2件 10,000千円 ・学長指定緊急重点研究 2件 3,500千円 ・地域連携 1件 2,000千円 計 5件 15,500千円 | 弘前大学機関研究制度 (助成内容) ・機関研究 3件 17,850千円 ・学長指定重点研究(特定研究) 2件 8,000千円 ・学長指定重点研究(地域研究) 3件 4,000千円 計 8件 29,850千円 | 弘前大学機関研究制度 (助成内容) ・機関研究 5件 35,200千円 ・学長指定重点研究(特定研究) 1件 4,000千円 ・学長指定重点研究(地域研究) 2件 5,800千円 計 8件 45,000千円 |
| ★研究者個人支援 ○若手研究者の支援 ○外部資金獲得後の支援 ○科研費の獲得支援 ○派遣支援 | 【H20制度創設】 弘前大学若手萌芽研究制度 (助成内容) 17件 10,500千円 | - | 【H21制度改称】 弘前大学若手研究者支援事業 (助成内容) 52件 24,770千円 【H21制度創設】 大型プロジェクト研究者支援事業 (助成内容) 14件 7,200千円 【H21制度創設】 科学研究費不採択者支援事業 (助成内容) 57件 10,000千円 |
| ★博士課程修了者支援 ○若手研究員の育成支援 | 【H16制度創設】 弘前大学内地研究員制度 (助成内容) 1名 派遣 | 弘前大学内地研究員制度 (助成内容) 0名 ※応募なし | 弘前大学内地研究員制度 (助成内容) 1名 派遣 |
| ★学部・研究科支援 ○研究成果公表の支援 ○科研費獲得に向けた継続的取組支援 | 【H19制度創設】 弘前大学特別研究員制度 (助成内容) 0名 ※採択後、辞退 | 弘前大学特別研究員制度 (助成内容) 0名 ※応募なし | 弘前大学特別研究員制度 (助成内容) 3名 9,000千円 【H20制度創設】 弘前大学国際シンポジウム助成事業 (助成内容) 1件 2,433千円 【H20制度創設】 科学研究費補助金インセンティブ経費の予算配分 |

第1次産業の活性化に関わる研究の実施状況（平成20・21年度）

| |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>○ナガイモを活用した抗インフルエンザウイルス組成物及び予防食品の開発 青森県環境保健センター，青森県工業総合研究センター弘前地域技術研究所（現（地独）青森県産業技術センター），（株）東北ミリオンと取り組んだ「ナガイモを活用した抗インフルエンザウイルス組成物及び予防食品の開発」が「FOOD ACTION NIPPON アワード2009」において，研究開発・新技術部門優秀賞を受賞し，青森県の特産品であるナガイモの利用拡大につながった。</p> |
| <p>○バイオマス利用研究分野 未利用農産資源である養鶏廃棄羽毛を原料として用い，高付加価値品への転換を図る研究開発を，東北大学未来科学技術共同研究センター，青森県工業総合研究センター，常盤村養鶏農業協同組合（藤崎町）などとの連携により平成20年度～平成21年度の2年間実施し，平成22年度中には化粧品を発売する予定である。</p> |
| <p>○都市エリア産学官連携促進事業 平成19年度に採択された文部科学省都市エリア産学官連携促進事業（一般型：3カ年）（総事業費各年度90,000千円）において，①プロテオグリカン含有機能性食品の商品化への研究開発，②プロテオグリカンの皮膚アンチエイジング分野及び化粧品への応用，③プロテオグリカンの新糖鎖創薬への応用，④プロテオグリカンを含む医薬品及び医療素材の研究開発の4つのテーマの研究開発を進め，QOLの向上に貢献するプロテオグリカンの応用研究と製品開発に取り組んだ結果，平成20年度，21年度の実績として，特許を5件申請した。</p> |
| <p>○県特産ナガイモの高品質安定供給に必要な優良種苗供給体制の構築と安定供給技術開発 全国農業協同組合連合会青森県本部との連携により，金木農場を利用したナガイモ優良種苗安定生産試験を推進し，ウィルスフリーのナガイモの生産体制を確立した。</p> |
| <p>○弘大GOGOファンド 県内等企業が実用化研究に取り組み，抱えている具体的な課題を，本学の教員と共同で解決を目指す研究に対して，研究費等を支援する「弘大GOGOファンド」事業において，以下の成果があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農学生命科学部教員とケイ・エイム・ナチュラル株式会社（田舎館村）とが共同研究「ハーブ類の香り成分の損失を抑制するフリーズドライ法の開発」を実施し，香りや色，味などを生に近い状態に保つ独自のフリーズドライ法を使い，より自然に近い状態で楽しめるハーブティーの開発に成功した。 ・医学部教員とヒバ開発（株）（大間町）との共同研究「青森ヒバ抽出エキス配合化粧品の安全性および有用性の検討」を行い，青森ヒバ抽出エキス配合化粧品のアトピー性皮膚炎，乾皮症の患者に対する安全性，有用性について検討を行った結果，安全性及び優位性を確認した。 ・ヒートポンプを使わない地熱利用融雪システムを，北日本新エネルギー研究センターと，芝管工株式会社（青森市）株式会社他県内企業と共同で，普及に向けた個人家庭用の低コスト掘削方式の検討を行い，平成20年度に弘前大学構内の歩道800㎡に融雪装置を設置し，実証試験を行った結果，約40%減の低価格の融雪方式を確立した。 |
| <p>○ツルアラメの有効活用の研究 未利用資源であるツルアラメの有効活用を図るため，大間漁業協同組合と共同研究を実施した結果，栄養成分表，商品特徴等を記載した企業向けの商品仕様書を作成した他，共同研究から見いだされた知見を基に，国の競争的資金である平成21年度シーズ発掘試験A発掘型に採択された。</p> |
| <p>○青森産カシスの新商品開発等共同研究 カシス生産量日本一の青森市と共同研究を行い，品種による栄養成分の違い，効率的な栽培方法，苗木増殖法等の確立に取り組んだ。研究成果は，あおもり「カシスなまち」推進会議等で報告及び情報提供し，会員企業の新商品開発につながった。</p> |
| <p>○青森県ビジネスモデル事業 「厚生労働省特別用途食品をターゲットとした青森ブランド産学連携ビジネスモデル構築」提案が，青森県ビジネスモデル事業に採択され（平成20年度），糖尿病をターゲットとして，安全性の高い青森県産ブランド品による厚生労働省特別用途食品の産学連携による開発に関わる調査等を行った。この成果をもとに，あおもり元気企業チャレンジ助成事業助成金に採択され（平成21年度），青森県産品の栄養成分・カロリー表記普及開発と表記スタイルに関わる調査研究を行い，医療・健康志向食品から見た青森県産品の活用について，栄養成分及びカロリー表記に関わる普及啓発事業及び健康指向性の高い優位差別化のための調査研究事業等を行った。</p> |

弘前大学「医用システム開発マイスター」養成塾 カリキュラム

開講カリキュラム

| コース | 授業科目 | | 形態 ^{*1} | 単位数 ^{*2} | | 開講時期 | 修了要件 ^{*3} |
|-----------|------|-------------------------|------------------|-------------------|----|------|----------------------|
| | | | | 必修 | 選択 | | |
| 基礎コース | 1101 | 医学概論 | 講義 | 1 | | 1前期 | 必修1単位、選択5単位以上を履修すること |
| | 1102 | 生体材料工学 | 講義 | | 1 | 1前期 | |
| | 1103 | CAD/CAM | 実習 | | 1 | 1前期 | |
| | 1104 | 微細加工学 | 講義 | | 1 | 1前期 | |
| | 1105 | 生体計測工学 | 講義 | | 1 | 1前期 | |
| | 1106 | 制御工学 | 講義 | | 1 | 1前期 | |
| | 1107 | メカトロニクス | 講義 | | 1 | 1前期 | |
| | 1108 | 情報処理工学 | 講義 | | 1 | 1前期 | |
| | 1109 | 生体シミュレーション | 講義 | | 1 | 1前期 | |
| | | 評価試験 | 口頭試問 | — | — | 1前期 | |
| | 小計 | | | 1 | 8 | | |
| アドバンストコース | 1201 | 光学応用の基礎 | 講義 | | 1 | 1後期 | 必修2単位、選択2単位以上を履修すること |
| | 1202 | マイクロ機器設計法 | 講義 | | 1 | 1後期 | |
| | 1203 | 超音波工学 | 講義 | | 1 | 1後期 | |
| | 1204 | 医療機器概論 | 講義 | 1 | | 1後期 | |
| | 1205 | 医用検査機器概論 | 講義 | 1 | | 1後期 | |
| | 2101 | 機器分析技術 | 講義 | | 1 | 2前期 | 必修3単位、選択1単位以上を履修すること |
| | 2102 | 生体機械工学 | 講義 | | 1 | 2前期 | |
| | 2103 | 科学技術倫理と法令 | 講義 | 1 | | 2前期 | |
| | 2104 | 臨床検査の実際 | 実習 | 1 | | 2前期 | |
| | 2105 | 外科手術等の実際 | 実習 | 1 | | 2前期 | |
| | 2201 | 企業間インターンシップ | 実習 | 2 | | 2後期 | 6単位をすべて履修すること |
| | 2202 | PBL ^{*4} ゼミナール | 実習 | 4 | | 2後期 | |
| | | 修了試験 | 報告 | — | — | 2後期 | |
| | 小計 | | | 11 | 5 | | |
| | 合計 | | | 12 | 13 | | |

*1: 講義の中には見学・実習も含まれる

*2: 1単位は12時間(1.5時間×8回)、企業間インターンシップは4日間、PBLゼミナールは8日間を予定

*3: 修了要件 基礎コース : 必修科目1単位、選択科目5単位以上

アドバンストコース : 必修科目11単位、選択科目3単位以上

*4: PBL(Problem Based Learning、課題解決型学習)

基礎コース履修モデル(通常月は1weekday:2回、1土曜:4回、夏期休暇月は1weekday:4回開講)

(下記は開講・履修のモデルですので、開講月・週については参考としてご覧ください)

| 月 | 4 | | 5 | | | 6 | | | 7 | | 8 | | | 9 | |
|----|-----------------------------------------------|----|-----|----|----|-----|----|-----|----|-----|---------------------|----|-----|-------------|------|
| 週 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 科目 | ①① | ①△ | ②② | ②△ | ③③ | ③△ | ④④ | ④△ | ⑤⑤ | ⑤△ | ⑥⑥ | ⑦⑦ | ⑧⑧ | ⑨⑨ | 評価試験 |
| 備考 | 1weekday(2)+1Sat(4)+1weekday(2)+1Sat(reserve) | | | | | | | | | | 1weekday(4)+1Sat(4) | | | 1weekday(2) | |
| 履修 | 1単位 | | 1単位 | | | 1単位 | | 1単位 | | 1単位 | | | 1単位 | | |

4~7月: weekday開講日は金曜日(14:20-17:30、または16:00-19:10)、Sat開講日は土曜日(10:20-17:30)

8~9月: weekday開講日は金曜日(10:20-17:30)、Sat開講日は土曜日(10:20-17:30)

(出典: 弘前大学「医用システム開発マイスター」養成塾 平成21年度基礎コース 授業計画p.1)

産業や文化の創造・発展に寄与する産学官連携による研究の実施状況（平成20・21年度）

○弘大GOGOファンド

青森県の産業振興及び地域振興を図るため、県内等企業が本学の教員と共同で解決を目指す研究に対して研究費等を支援する弘前大学マッチング研究支援事業「弘大GOGOファンド」を実施しており、抱えている具体的な課題の実用化研究に取り組み、これまで8件の研究に対し、研究費等を支援した。この取組は企業から研究課題の提案を受け、本学の研究とマッチした事業に研究費を支出するという全国初のユニークな仕組みとなっている。

○サンスター株式会社との共同研究

研究連携協定を締結したサンスター株式会社との共同研究において、プロテオグリカンのスキンケア、化粧品分野の製品開発に向けて、研究員（常勤）の派遣を受け、本学研究者と共同で研究開発を実施している。また、サンスター(株)からの寄附により、平成20年度から3年間の寄附講座「糖鎖医学講座」を医学研究科に設置した。

○弘前大学医用システム開発マイスター養成塾の開設

理工学研究科附属先進医用システム開発センターにおけるマイクロ・ナノテクノロジーを基にした医用デバイスの開発等、医工連携の取組を進展させ、平成20年度から5カ年計画で、文部科学省科学技術振興調整費により、青森県等と連携して、津軽地域の精密機器関連の企業の集積を有効に活用し、地域の再生・新産業の創出を図るため、新しい医用システム機器の研究開発の担い手となる人材を養成する「医用システム開発マイスター養成塾」を医学部と理工学部が共同で開始した。

平成20年度はプログラムを策定し、平成21年度から地元企業等の技術者を受講生として受け入れ、基礎コース修了者として9人を認定し、うち7人がアドバンスコースに進級した（修了は平成22年度末）。また、平成22年度（第2期）の基礎コース受講者募集を進め、7人の受講者を認定した。

○食品残さを活用したアルコール発酵型飼料による特産牛肉生産技術の開発

平成21年度「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」で「食品残さを活用したアルコール発酵型飼料による特産牛肉生産技術の開発」が採択され、循環型牛肉生産方式を検証する受託研究を実施し、地域の牛に地域の特産物であるリンゴ絞り粕等を利用したアルコール発酵型の地域特産飼料開発に取り組み、肉質改善効果を検証し、地域特産牛肉「アップルビーフ」の肥育技術確立に取り組んだ。

○ナガイモを活用した抗インフルエンザウイルス組成物及び予防食品の開発

青森県環境保健センター、青森県工業総合研究センター弘前地域技術研究所（現（地独）青森県産業技術センター）、(株)東北ミリオンと取り組んだ「ナガイモを活用した抗インフルエンザウイルス組成物及び予防食品の開発」が「FOOD ACTION NIPPON アワード2009」において、研究開発・新技術部門優秀賞を受賞し、青森県の特産品であるナガイモの利用拡大につながった。

○天然藍染製剤の商品開発

人文学部教員と丸富川崎染工場（弘前市）が人文学部亀ヶ岡文化研究センターの研究成果を元に、津軽の伝統工芸である天然藍染製剤に縄文土器のデザインを利用した商品開発に取り組み、風呂敷、コースター等の商品を開発し、発売した。

先見性のある基礎的研究への支援状況（平成20・21年度）

○弘前大学若手研究者支援事業の創設（平成20年度～）

本学の若手研究者が取り組む研究を支援するため、平成20年度に「弘前大学若手萌芽研究」を創設（17件採択）した。平成21年度は当該事業を充実させ、将来の発展が期待できる独創的な研究を支援する事業として、「弘前大学若手研究者支援事業」と改称し52件を採択し、研究費を重点配分した。また、本制度による支援により、若手研究者の研究能力が向上した成果として、採択者の科学研究費補助金の獲得につながった。

○弘前大学特別研究員制度の推進（平成19年度～）

本学の博士課程修了者等で優れた研究能力を有し、本学で研究に従事することを希望する者を最長3年の任期を付して弘前大学特別研究員に採択し、研究に専念させた。平成19年度に制度を創設し、平成20年度は採択者がなかったが、平成21年度は3人を採択し、研究奨励金の支給等の支援を行った。また、本制度による支援により、若手研究者の研究能力が向上した成果として、採択者の科学研究費補助金の獲得につながった。

○弘前大学機関研究の推進（平成19年度～）

本学の基幹となる研究を明確にし、それぞれの研究成果をより効率的、統一的に発展させることを目的として、平成19年度に「弘前大学機関研究」制度を導入し、平成20年度は3件、平成21年度は継続課題3件を含む5件の研究課題を機関研究として指定し、研究費の重点配分による全学的支援を行った。また、今後機関研究となりうる期待できる研究課題を学長指定重点研究（特定研究）、地域に関連した課題で時宜を得た研究課題を学長指定重点研究（地域研究）に指定し、併せて支援を行った。

○弘前大学大型プロジェクト研究者支援事業の創設（平成21年度）

大型の競争的資金等の外部資金を獲得した研究者を支援し、当該研究の更なる進展を図るため、当該事業を創設し、14件を採択し、研究費の重点配分による全学的支援を行った。

○科学研究費補助金不採択者支援に係る助成金事業の創設（平成21年度）

科学研究費補助金の採択向上を支援するため、当該事業を創設し、57件を採択し、研究費の重点配分による全学的支援を行った。

○弘前大学国際シンポジウム助成事業の創設（平成20年度～）

弘前大学機関研究を始めとした本学で取り組む研究について、国際交流や研究水準の向上等を図ることを目的として、当該事業を創設し、事業費の重点配分による全学的支援を行った。

○学内共同教育研究施設の新設（平成20年度～）

全学の共同教育研究施設として、新エネルギーの研究開発を行うための北日本新エネルギー研究センター（平成20年度）、白神山地に関する総合的研究等を実施するための白神自然観察園（平成21年度）を新たに設置し、教員を配置するとともに研究費を重点配分した。

○縄文文化研究分野（平成21年度）

人文学部亀ヶ岡文化研究センターにおいて、成田家より『成田コレクション』の寄贈を受け、資料室を創設した。また、特別展「成田彦栄氏考古資料展」と題して一般に公開し、シンポジウム「縄文遺産群の世界遺産に向けて」を開催するなど、縄文文化の研究成果を公開し、研究をさらに進めた。

○基礎研究成果の公表・発信（平成21年度）

基礎研究成果の公表を進めるとともに、さらなる推進を図った。

- ・被ばく事故例、放射線基礎研究について第1回緊急被ばく医療国際シンポジウムを開催した。
- ・被ばく線量評価の世界的標準基準である染色体研究について、染色体線量評価及びネットワーク国際会議を開催した。
- ・新技術、エネルギーと環境、先端医療について県外で初めて単独シンポジウムとして弘前大学プロジェクト研究京都シンポジウムを開催した。

共同研究の実施状況

○共同研究の推進

- ・地域共同研究センターと理工学部教員、平川市、NTTドコモ青森支店が災害発生時における市民への警報避難情報等の迅速な伝達方法について共同研究を行い、平成22年2月に、全国初の緊急速報エリアメールの市民参加型実証実験を行った。
- ・農学生命科学部教員と理工学部教員が共同研究を行い、青森産ナマコの機能性研究に取り組んだ。
- ・研究、産学連携担当理事をプロジェクト部会長として、教育学部教員、医学部教員、附属病院教員とサンスター社がプロジェクトチームを組み、弘前産タゲ藍を利用した商品開発に取り組んだ。
- ・地域共同研究センター、教育学部教員、農学生命科学部教員が共同で、えどがわ農業産学公プロジェクトとして東京都江戸川区農産物のブランド化に取り組み、産学連携の成果として生食の小松菜の安全性を確認し、平成22年1月に「サラダ小松菜」の販売が開始された他、江戸川産小松菜と青森県産リンゴジュースの試作品を開発した。
- ・未利用資源であるツルアラメの有効活用を図るため、大間漁業協同組合と教育学部及び農学生命科学部が共同研究を実施した結果、栄養成分表、商品特徴等を記載した企業向けの商品仕様書を作成した他、共同研究から見いだされた知見を基に、国の競争的資金である平成21年度シーズ発掘試験A発掘型に採択された。
- ・教育学部教員と、農学生命科学部教員が共同で、カシス生産量日本一の青森市と共同研究を行い、品種による栄養成分の違い、効率的な栽培方法、苗木増殖法等の確立に取り組んだ。研究成果は、あおもり「カシスなまち」推進会議等で報告及び情報提供し、会員企業の新商品開発につながった。

作成日：2009. 9. 07.

研究課題：一般相対性理論を用いた多天体ダイナミクスおよび性質の研究
浅田秀樹（理工学研究科）

活動概要：

3個以上の天体を含む力学系をアインシュタインの一般相対性理論の観点から調べた。アインシュタイン方程式の複雑さのため、2個の天体(連星)の研究が現時点では世界の主流である。従って、3個以上の天体系に対する一般相対性理論を用いた研究をいまのうちに開拓しておけば、将来、この分野をリードできる可能性があり、大変魅力的である。

弘前グループでは、初めて一般相対性理論の観点から、「8の字解」に関する研究を行った実績がある。特に、アインシュタイン重力は、ニュートンの重力理論にはない特徴である「重力波」や「近日点移動」を備えており、これらに関して2体系と3体系の違いを明らかにすることができた。

従って、

(1) 「8の字解」より一般的な3体系の解である「ラグランジュ解」を対象、

(2) 一般相対論的なより高精度の計算、

を行った。時期として、まずユネスコ主催の国際会議(パリ, 2009.6.29-7.3)へ参加することで、世界の研究情報を収集できた。また、受け入れ研究者のGourgoulhon博士(パリ天文台, フランス共和国)はコンピューターを用いた一般相対論に関する数値計算の専門家であり、彼との議論により新しい解析的な研究の方向性を見出すことができた。

これらの結果、「ラグランジュ解」をモデルケースとした重力波の「逆問題」を完全な形で解くことが初めて可能となった。ここでの逆問題とは、波形から波源の識別を行なうことが可能かどうか、そして可能ならばどのようにして判定するのかを明らかにする問題のことを指す。

今回の研究成果に関して、派遣中に論文を作成して投稿した。なお、8月28日付で審査結果（掲載決定）の通知を受けた。

論文題目：Gravitational wave forms for a three-body system in Lagrange's orbit

雑誌：Physical Review D（アメリカ物理学会発行）、印刷中（2009）

著者名：Hideki Asada

以上

弘前大学創立60周年記念会館
コラボ弘大

4F

生涯学習教育センター
大学院地域社会研究科

生涯学習教育研究センターは、公開講座・講演会等の開催及び地域社会の課題や生涯学習に関する調査研究を行っています。

地域社会研究科は、後期3年博士課程の独立研究科で、課題探求能力にかかわりうる高度専門職業人を養成しています。

3F

管理部門

産学官連携を支援する中核として、理事室(研究・産学連携担当、社会連携・情報担当)、学術情報部(研究推進課、社会連携課、共同教育研究課)が入居し、関連するセンター等と連携をとりながら支援しています。

2F

機器分析センター

機器分析センターは、物質分析や形態計測のための大型機器を整備し、機器の共同利用を推進して研究と教育の質と効率の向上をめざしています。また、設置された分析機器を県内の企業等に開放しています。

1F

エントランスロビー

エントランスロビーには、総合案内、コミュニケーションスペースのほか、世界の気象・地震情報を地球儀によってリアルタイムにモニターできる「Earth Vision」や創立60周年記念品「幸せのリング」(宮田恭平東京藝術大学長作)を展示しています。また、本学の産学官連携の中心となる「地域共同研究センター」が併設されています。



▲喫茶コーナー



▲生涯学習教育センター

▲大学院地域社会研究科



▲事務室



▲機器分析センター



▲コミュニケーションスペース



▲地域共同研究センター

8F

八甲田ホール

セミナー、シンポジウムの実施など、広く学内外の方がイベントホールとしてご利用できます。眺望もよく、200名程度の収容が可能です。また、会議等の用途に応じた部屋の仕切り(3分割)や音響・映像設備で多機能に対応できます。



▲八甲田ホール

7F

放送大学青森学習センター

放送大学青森学習センターは、文部科学省・総務省所管の正規の大学の一つです。放送大学は、働きながら様々な資格取得が可能です。また、300の科目から履修を履修し、あるいは人生を楽しく学ぶ大学です。



▲放送大学青森学習センター

5F・6F

レンタルラボ

研究開発型の企業、インキュベーション企業、公設の研究機関、大学の教員・学生の研究を支援するための施設としてレンタルラボを設置しました。今後、研究・開発活動による事業の美用化・産業化をめざして支援します。



▲レンタルラボ

施設概要

- 建設経緯
弘前大学創立60周年を記念し、弘前大学の全学にわたる産学官連携及び社会貢献に資する事業を集中化し、学内外の利便性を高めることを目的とした複合ビルを建設した。
- 設置場所
弘前大学文京町キャンパス構内
理工学研究科と生命科学学部中間に位置する建設コラボレーションセンター裏側
- 規模
構造：鉄骨鉄筋コンクリート造
階数：地上8階建て
延床面積：3,758㎡

■フロアー構成・面積表

| 階 | フロアー構成 | 床面積㎡ |
|----|--------------------------------------------------|--------|
| 8階 | 八甲田ホール | 462.19 |
| 7階 | 放送大学青森学習センター | 462.19 |
| 6階 | レンタルラボ | 462.19 |
| 5階 | レンタルラボ | 462.19 |
| 4階 | 生涯学習教育研究センター 大学院地域社会研究科 | 462.19 |
| 3階 | 理事室、学術情報部 (研究推進課、社会連携課、共同教育研究課) | 462.19 |
| 2階 | 機器分析センター | 462.19 |
| 1階 | 総合案内、金工作品展示、喫茶コーナー、 弘前大学サイエンスパーク [アースビジョン] | 522.53 |



HIROSAKI UNIVERSITY

International Exchange Center
 Hirosaki University
 1 Bunkyo-cho, Hirosaki-shi
 Aomori-ken, 036-8560
 JAPAN
 TEL : 0172 (39) 3109
 FAX : 0172 (39) 3133

March 16, 2007

To whom it may concern at Kyungpook National University

Evaluation of students' academic activity is the most important issue for the university, though the way of evaluation differs country by country. Actually we have been asked about the details of our evaluation system. To eliminate the difference or to understand the difference, UMAP (University Mobility in Asia and the Pacific) proposed a evaluation system, called UCTS (UMAP Credit Transfer Scheme). The scheme is explained at <http://www.umap.org/Ucts/index.html> and some part for grading is reproduced below.

UCTS grade shows the position of the student in the class, while our grade shows more or less absolute achievement in the class. Combining with our own evaluation, we expect for you to understand the grade of the student better. So we sent the evaluation both by UCTS and our own as the test case.

This is the first step to use UCTS for us. We are looking forward to your comments and suggestions for this grading system.

Sincerely,

S. Kuramata
 Director, International Exchange Center
 Hirosaki University

Table 1: UCTS Grading Scale

| UCTS grade | % of students in class | definition |
|------------|------------------------|-------------------------------------------------------|
| A | 10 | Excellent outstanding with minor errors |
| B | 25 | Very Good above average standard but with some errors |
| C | 30 | Good sound work with notable errors |
| D | 25 | Satisfactory fair but with significant shortcomings |
| E | 10 | Sufficient performance meets minimum criteria |
| FX | - | Fails some more work required |
| F | - | Fail Considerable further work is required |

HIROSAKI UNIVERSITY

International Student Exchange Center
1 Bunkyo-cho, Hirosaki city 036-8560 JAPAN
TEL +81-172-39-3109, FAX +81-172-39-3133

弘前大学特別聴講学生・単位修得証明書(UCTS) RESULT CERTIFICATE OF SPECIAL AUDITOR STUDENT (UCTS)

Name SHIN EUN JAE 申 恩才
University Kyungpook National University 慶北大学校
Nationality Republic of Korea 大韓民国
Date of Birth 23 FEB 1985
Semester 2006 Fall Semester (Oct. 1, 2006 ~ Mar. 31, 2007)
UCTS Grade A (10%), B (25%), C (30%), D (25%), E (10%), FX, F

| 授業科目 | Subject | UCTS Grade | Credit |
|-------------------|-----------------------------------------------------------------|------------|--------|
| 日本の社会 II A | Japanese Society II A | C | 2 |
| 日本語中上級 II B | Upper Intermediate Japanese II B | D | 2 |
| 国際社会コース 特設講義 A | Globalization and the Politics of Food and the Environment A | B | 2 |
| 英語実習 A II | English Communication A II | A | 2 |
| 日本語教育 B | Japanese Language Pedagogy B | A | 2 |
| 英語作文 III | English Composition III | B | 2 |
| 英語 IV | English IV | B | 1 |

I hereby certify that the above statement is true and correct in every detail.

Official Seal of the Director



Shuichi Kuramata

Prof. Shuichi Kuramata, D. Sc.

Director, International Student Exchange Center
Hirosaki University, Hirosaki, JAPAN

Mar. 31, 2007

HIROSAKI UNIVERSITY

International Student Exchange Center
1 Bunkyo-cho, Hirosaki city 036-8560 JAPAN
TEL +81-172-39-3109, FAX +81-172-39-3133

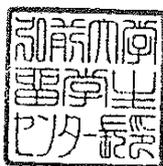
弘前大学特別聴講学生・単位修得証明書 RESULT CERTIFICATE OF SPECIAL AUDITOR STUDENT

Name SHIN EUN JAE 申 恩才
University Kyungpook National University 慶北大学校
Nationality Republic of Korea 大韓民国
Date of Birth 23 FEB 1985
Semester 2006 Fall Semester (Oct. 1, 2006 ~ Mar. 31, 2007)
Grade A(100~80), B(79~70), C(69~60), D(59~0)

| 授業科目 | Subject | Grade | Credit |
|-------------------|-----------------------------------------------------------------|-------|--------|
| 日本の社会 II A | Japanese Society II A | A | 2 |
| 日本語中上級 II B | Upper Intermediate Japanese II B | B | 2 |
| 国際社会コース 特設講義 A | Globalization and the Politics of Food and the Environment A | A | 2 |
| 英語実習 A II | English Communication A II | A | 2 |
| 日本語教育 B | Japanese Language Pedagogy B | A | 2 |
| 英語作文 III | English Composition III | A | 2 |
| 英語 IV | English IV | A | 1 |

I hereby certify that the above statement is true and correct in every detail.

Official Seal of the Director



Shuichi Kuramata

Prof. Shuichi Kuramata, D. Sc.

Director, International Student Exchange Center
Hirosaki University, Hirosaki, JAPAN

Mar. 31, 2007

協定校留学で取得した単位の本学での認定について

●人文学部

- ・状況：特に問題点はありません。
- ・協定校留学者数：H20 21名
H19 15名
H18 10名
H17 13名
H16 12名
H15 5名

<単位認定一覧>

| 学生氏名 | 留学先大学 | 留学期間 | 留学先大学の授業科目名 | 単位 | 本学での認定科目 | 単位 |
|---------------------|------------------------------|------------------------------|---------------------------------------------|----|-------------------------------|----|
| 宍戸 麻衣 (07H2061) | ボルドー第一 三大学 (フランス) | 平成20年 9月～ 平成21年 3月 | FRANCAIS ORAL | 2 | フランス語実習AⅡ | 1 |
| | | | FRANCAIS ECRIT | 2 | フランス語実習BⅡ | 2 |
| | | | CIVILISATION ET CULTURE | 2 | 現代フランス語論B | 2 |
| 田崎 郁実 (06H1064) | オークランド 工科大学 (ニュージーランド) | 平成20年 2月～ 平成20年 7月 | Oral Interaction and Presentation Skills | — | ヨーロッパ文化論演習B | 2 |
| | | | Reading and Vocabulary Development | — | 英米文化論演習C | 2 |
| 洞口 早希 (05H1098) | テネシー大学 マーチン校 (アメリカ) | 平成19年 5月～ 平成19年 12月 | Modern Drama | 3 | 英米文化論演習A | 2 |
| | | | History of US | 3 | 現代アメリカ論B | 2 |
| | | | Pilates | 2 | スポーツ実技 (エアロビック・ダンス・エクササイズ) | 1 |
| 三村 香織 (05H2101) | トンプソンリ バーズ大学 (カナダ) | 平成19年 8月～ 平成19年 12月 | Intermediate Pronunciation | 3 | 英語音声学Ⅰ | 2 |
| | | | | | 英語音声学Ⅱ | 2 |
| 松倉 理華 (04H3094) | 哈爾濱師範 大学(中国) | 平成18年 9月～ 平成19年 7月 | 総合 (Comprehensive Course) | 6 | 中国語Ⅱ(A) | 1 |
| | | | | | 中国語Ⅱ(B) | 1 |
| 齋藤 美奈子 (02H2049) | チェンマイ 大学(タイ) | 平成15年 10月～ 平成16年 9月 | English in Business | 3 | 英語 L3 Communication | 2 |
| | | | British and American Cultural Studies | 3 | 現代アメリカ論B | 2 |
| | ヒッペリオン 大学 (ルーマニア) | 平成16年 10月～ 平成17年 3月 | European and Regional Politics | 4 | 現代ヨーロッパ論B | 2 |
| | | | Commercial English | 4 | 英語 L4 Communication | 2 |
| | | | Marketing | 4 | マーケティングⅠ | 2 |
| | | | Economics | 4 | マーケティングⅡ | 2 |
| 齋藤 美奈子 (02H2049) | オタゴ大学 (ニュージーランド) | 平成17年 4月～ 平成18年 3月 | Academic English (Linguistics 121) | 6 | 応用言語A | 2 |
| | | | | | 応用言語B | 2 |
| | ラ・フロン テラ大学 (チリ) | 平成18年 4月～ 平成19年 3月 | Relations Internacionales Contemporaneas | 3 | 国際政治B | 2 |

平成21年12月 国際交流センター

協定校からの外国人留学生在が取得した単位の母校での取扱いについて

弘前大学と国際交流協定を締結しているオークランド工科大学、オタゴ大学、哈爾濱師範大学の3大学からの留学生在が本学で取得した単位について、帰国後母校においてどれくらい認められているかの調査結果を次のとおり報告するものである。

(1) オークランド工科大学 (ニュージーランド)

オークランド工科大学のフルタイムの学生は、1年で120ポイントを習得する。その内訳は、90ポイントが日本語、30ポイントが選択科目となっている。

弘前大学で学んだ学生は帰国後、弘前大学の基準でフルタイムに匹敵する授業数を受けていたことの確認が行われ、さらにプレースメントテストを受け、オークランド工科大学で同じ一年を過ごしていたならば到達したはずのレベルに到達したかどうか確認される。ほとんどの学生が、そのレベル以上に到達しているので一年分の120ポイントを習得することとなる。

(2) オタゴ大学 (ニュージーランド)

オタゴ大学は、単位を互換できるシステムを作っている。

オタゴ大学で学ぶフルタイムの学生は一年間で108ポイントを習得する。留学する学生は、事前に本学のシラバスから希望する授業をリストアップし、Stars教授からあらかじめ承認を得ている。弘前大学でプレースメント・テストを受けてから授業を変更する場合は、同教授に連絡している。

弘前大学でフルタイムの授業を修了した学生は、基本、日本語72ポイントを習得し、国際交流科目をオタゴ大学のunspecified artsの単位として扱い、36ポイントを習得する。これで留學生は、一年間で合計108ポイントを習得することとなる。

(3) 哈爾濱師範大学 (中国)

哈爾濱師範大学は、留學生が留学先の大学のカリキュラムで、一年間、最低限として8科目を履修し、18単位を取得することを規定している。一年間留学した場合、8科目以上を受講して合格し、18単位を取得すれば、哈爾濱師範大学のその学年の所定科目数と単位数の詳細を問わず、学年の成績が合格だと認定される。

例をあげると、本学で合計13科目を履修し、28単位を取得した留學生は、帰国後、哈爾濱師範大学の日本語学部三年級の必修科目が14科目、選択科目は2科目で、あわせて40学習単位となっているが、三年級の成績が合格だと認定されている。